

## 2. 水中観察(タイヤチューブ型)

大きなタイヤチューブに腹ばいになって乗り、箱メガネを使って川の中をのぞき込み、水中の様子を観察してみましょう。

### ■目的

- ①陸上からは見ることのできない川の中の様子を観察する。
- ②川に生息する生き物を観察する。

### ■適した場所

- ①水深が0.7～1m程度で、流れが緩やかな場所
- ②安全にチューブに乗り降りできる岸(浅瀬)がある場所
- ③スタートとゴールの間隔は、5～10m程度



●タイヤチューブに乗って、水中観察を楽しむ児童(琴似発寒川・いたどり橋付近)

### ■すすめ方

- ①スタートとゴールを確認する。それぞれの地点には教員・指導者が補助に入る。
- ②陸上でタイヤチューブの乗り方・降り方を確認する。
- ③スタート地点の前に二列(バディ)で並ぶ。
- ④補助者にタイヤチューブを支えてもらいながら、一人ずつ膝をついて腹ばいになって乗り込む(写真7)。
- ⑤タイヤチューブに乗り込んでから箱メガネを受け取る。
- ⑥川の流れによってゴールを目指す。流れから外れる場合は、手で水をかいて進路を修正する。
- ⑦ゴールについたら、補助者に箱メガネを渡し、タイヤチューブを支えてもらい、タイヤチューブから降りる。
- ⑧ゴールからスタートへ、タイヤチューブと箱メガネを運ぶ。



写真7

●膝をついて、低い姿勢でタイヤチューブに乗り込む児童

### ■使用する道具

タイヤチューブ(大型の物・4本前後)、箱メガネ(8個)

### ■実施上の注意点

- ①タイヤチューブへの乗り降りに補助が必要である為、スタート2名、ゴール2名程度の教員・指導者を配置する。その他に、ゴールからスタートへのタイヤチューブ・箱メガネ運びの補助を1名以上配置する。
- ②誤ってタイヤチューブから川の中に落ちて足がつく場所で実施する。
- ③眼鏡使用の児童は眼鏡バンド(もしくはゴム紐)で眼鏡を固定する。
- ④木の枝などの障害物に注意する。

### ■その他

#### 1. 箱メガネの使い方のポイント

- ①箱メガネのレンズが曇った場合は、川の水を箱メガネの中に入れて流すことで曇りがとれる。
- ②箱メガネは、水中に浸けて水面の光の反射を防いで水中を見やすくする為の道具である為、水の中に入れて使用することを児童に伝える。



●箱メガネでのぞき込むと、水面の光の反射がおさえられ、水中の様子がわかる。写真には、ヤママが写っている。

#### 2. タイヤチューブ型水中観察のメリット

- ①水が濁らないので、水中を観察しやすくなる。
- ②振動、水の揺れが少なくなり、魚が逃げるのが少なくなり観察しやすくなる。
- ③川底と同じ色や模様をした魚(写真8・9)などの様子をじっくりと観察することで、生き物の擬態や保護色への理解が深まると共に児童の観察力が高まる。



写真8

●琴似発寒川の水中写真1 / ハナカジカが写っている。



写真9

●琴似発寒川の水中写真2 / フクドジョウが写っている。